

草原保全活動センター

草原と農業

農業は、長い期間、阿蘇草原の生活手段でした。草原で秋に刈り取り、牛の敷料として使った野草は良好な堆肥として阿蘇の農業を支えてきました。米や穀物、野菜づくり、花卉や茅、可燃性の燃料用植物の栽培などがいずれもこの地域特有の寒冷な気象条件および広大な平原や草原が生み出す良好な環境の下で盛んに行われています。

豊富な草と水源のおかげで、特に牧畜業はこの地域の重要な農業の 1 つです。土地の自然の恵みを利用することにより、農民たちは牧畜業を収入源とするだけでなく放牧によって草原の状態を保全する共生関係を築きました。

日本の他の地域と同様、地方の農業は衰退しつつあります。高齢化や若い労働者たちの他の職種や大都市でキャリアを磨きたいという願望があって、阿蘇の農地は地元民ではもはや十分に維持することができなくなって来ています。現在では毎年の野焼きは周辺の大都市から受け入れたおよそ 2500 人のボランティアに頼る状況です。